

輸血・移植免疫検査学実習

責任者：嶋津 翔太
学年・学期：第2学年・前期／後期

単位数：1単位(45時間)

◆一般目標(GIO)

病院の現場においては、輸血・移植業務の正確さは非常に重要視されており、輸血検査を正しく行い、正確に判断できる技量を身に着けることが求められている。

輸血・移植免疫検査学実習では、輸血の各種検査を実践し、最終的に一人で輸血検査を正しい技術で行い、正確に判断できる能力を身に着けることを目的とする。

また、最新の先端技術を用いた検査法でも自然に理解・適応できる臨床検査技師を育成する。

◆到達目標(SBOs)

1. 検査に用いる赤血球の洗浄操作をすることができる。
2. 直接・間接抗グロブリン試験の機序並び臨床的意義を説明することができる。
3. 抗グロブリン試験で赤血球の洗浄不足による影響を説明することができる。
4. 不規則抗体スクリーニングについて説明することができる。
5. 不規則抗体同定検査について説明することができる。
6. ABO式血液型のオモテ試験・ウラ試験を実施することができる。
7. 血液型の判定を誤る原因について述べるすることができる。
8. Rh式血液型を実施し、結果の解釈をすることができる。
9. weakD型の輸血方法を説明することができる。
10. 交差適合試験を実施し、結果の解釈をすることができる。
11. 受身凝集反応を用いHIV抗体、HTLV-1抗体の検査を実施し、判定することができる。
12. HIV、HTLV-1、HCV抗体の臨床的意義を述べることができる。
13. ウイルス抗体価測定(HI法)の原理と結果の解釈ができる。
14. EIAの測定原理を説明することができる。
15. HBVの臨床的意義を述べることができる。
16. 免疫カマトグラフィー法を用い抗原の検査を実施し、判定することができる。

◆学習方法

実習書及び、必要に応じてプリント、スライドを用い、無理なく輸血移植免疫検査学の技術を身につけ、知識を深められるよう実習を行う。

◆評価方法

レポート、実習態度、出席を考慮し、実技試験、定期試験を行い総合的に評価を行う。

◆教科書

臨床検査学講座 『免疫検査学』 窪田 哲朗 他編著 医歯薬出版(株)

◆参考書

◆教員紹介

担当教員は病院での勤務経験に基づいて、臨床検査技師養成に向けた授業を展開する。

回数	項目	講義内容	担当
1 2	輸血検査 (輸血検査の基本操作-I)	赤血球の洗浄操作	嶋津
3 4	輸血検査 (輸血検査の基本操作-II)	直接・間接抗グロブリン試験	〃
5 6	輸血検査 (輸血前検査-I)	不規則抗体スクリーニング	〃
7 8	輸血検査 (輸血前検査-II)	不規則抗体同定検査	〃
9 10	輸血検査 (血液型検査-I)	ABO式・Rh式血液型検査	〃
11 12	輸血検査 (血液型検査-II)	ABO式・Rh式血液型検査(亜型・変種)	〃
13 14	輸血検査 (交差適合試験-I)	交差適合試験(ABO式不適合)	〃
15 16	輸血検査 (交差適合試験-II)	交差適合試験・不規則性抗体の同定	〃
17 18	輸血検査 (輸血後感染症検査)	HBs抗原、HIV抗体、HTLV-1抗体検査	〃
19 20	ウイルス感染症検査-I (赤血球凝集抑制反応)	風疹ウイルス抗体検査	〃
21 22	ウイルス感染症検査-II (赤血球凝集抑制反応)	EIA法によるHBs抗体価測定 ICA法によるインフルエンザ抗原検査	〃
23	実技試験	ABO・Rh式血液型検査の実技評価 交差適合試験による輸血適合血の選択 etc	〃